轟（とどろ）きと、光と暗闇と。

坂東玉三郎 芸術監督第2回演出作品

KODŌ

鼓童ワン・アース・ツアー～神秘

芸術監督
坂東玉三郎

言葉では言い表せない、神秘の世界へ。

今回の作品は、日本各地に伝わる民俗芸能が持つ、神聖さや祈りの中に潜む神秘的な空気を鼓童の太鼓で表現し、お客様に味わってもらいたいと考えています。神社や仏閣、あるいは、身近な森での様々なものとの出会い、そこで感じる非現実的で素晴らしい雰囲気を劇場で体感していただきたいのです。

もう一つは、闇というものを楽しんでいただきたいとも思っています。ロウソクの灯りの中で遭遇する物の美しさと、曖昧で不思議な感覚。神秘性の中には、恐ろしさ、滑稽さ、可愛さなど、色々な事柄が含まれています。昔から伝わっている蛇舞も、退治される蛇には驚く程の神聖さが備わっています。今回の舞台では闇の中からいろいろなものが現れます。鼓童ならではの太鼓の演奏に、視覚的な要素も十分に取り入れました。

不思議な時空というものは、その場に居合わせなければ感じることが出来ません。神事や芸能も、先人の閃きを長い時間をかけて磨き上げて来たものです。今回の鼓童の舞台で、そうした不思議な時空を存分にお楽しみ頂きたいと思っています。

坂東玉三郎／東京生まれ。歌舞伎界当代の立女方。人間国宝。「鼓童」とは 2000 年から活動を共にし、2012 年に芸術監督に就任。

全貌を現した「神秘」の世界。

～光と闇が織りなす、新たな次元でお贈りする鼓童の舞台。

2013年11月23日アミューズメント佐渡（新潟）　撮影：岡本隆史

蛇舞

明けの明星

三宅

獅子舞

霹靂

鼓童 http://www.kodo.or.jp
952-0611新潟県佐渡市小木金田新田148-1
Tel. 0259-86-3630（月～金、9:30～17:00）
Fax. 0259-86-3631 Email: heartbeat@kodo.or.jp

「アマテラス」から「神秘」へ

～日本の心の故郷、神話や民俗芸能に潜む神秘と出逢う舞台

寄稿●玉重佐知子（ジャーナリスト）
写真●岡本隆史、玉重佐知子、上田恵里花　構成●上田恵里花

新作「神秘」の開幕迫る
―巳年の縁に導かれて

地鳴りのような響きの中を渦巻く大蛇、荒ぶる鬼や囃子。ほの暗い闇に浮かび上がる、時に怖くもあり、どこか懐かしい存在…。『神秘』は、日本各地に伝わる民俗芸能が持つ、神聖さや祈りの中に潜む神秘的な空気を鼓童の太鼓で表現する作品だ。神社や仏閣、あるいは、身近な森での様々なものとの出会い、そこで感じる非現実的で素晴らしい雰囲気が劇場で繰り広げられる。

玉三郎さんが公演の演出のため佐渡の鼓童村に通い始めた2001年は巳年だった。それから一回り巡った巳年の今年、石見神楽の「大蛇」に学んだ蛇舞が一つの見せ場となる『神秘』が初演される。

9月、スタッフの上田恵里花さんのご案内で、石見神楽の本拠地である島根県を訪ね、温泉津町で地元神楽団体「温泉津舞子連中」を率いる小林泰三さんから蛇舞の指導を受ける『神秘』のメンバー草洋介さんと小松崎正吾さんの稽古の現場を取材させていただいた。石見から、八岐大蛇退治の神話の舞台、出雲にも足をのばし、「大蛇」づくしの旅を続ける中、蛇の神様に導かれているような気がした。

6月、佐渡を訪ねた折、鼓童村は『アマテラス』と『神秘』の稽古の真っ最中だった。

『アマテラス』は天照大神の「天の岩屋戸」、『神秘』の蛇舞は「須佐之男命の大蛇退治」と、「古事記」や「日本書紀」でおなじみの神話が題材だ。昨年は古事記編纂から1300年、今年は伊勢神宮や出雲大社の式年遷宮が重なり、日本の国や民族の記憶の基層が顧みられる年でもあった。神話や神事を題材にした鼓童の公演が今年行われることはタイムリーで、特別な意図があるように思われた。演出家である玉三郎さんにその本意を訊ねると、「偶然です」とおっしゃる。

「遷宮と重なったのは全くの偶然。鼓童と出逢った頃、共演するなら神話がいい。古代、トンと物を叩いて音をだすところから始まった太鼓。そういう始源の音楽の一座と一緒にやるなら、太古の話、アマテラスかスサノオの話がいいと思ったのです。」

鼓童村での「蛇舞」稽古の様子。

玉重佐知子（たましげ・さちこ）　プロフィール
文化ジャーナリスト。早稲田大学卒。1988年渡英、ロンドンで西洋美術史、映画文化人類学を学んだ後、ロンドンを拠点にNHKやBBCなどのドキュメンタリー番組制作に関わる一方、美術、建築、デザイン、音楽、映画他文化一般について、アエラ、芸術新潮、BT（美術手帖）、ミセス、日経BP社の各誌、ソトコト、Japan Times、Blue Print他に執筆。英国や日本の文化政策や文化を起爆剤にした地域振興戦略を追っている。書籍「Creative City　アート戦略EU・日本のクリエイティブシティー」（国際交流基金／鹿島出版会）の一部を執筆。現在は木造伝統構法と森林文化研究のため京都に在住。

鼓童　http://www.kodo.or.jp
952-0611新潟県佐渡市小木金田新田148-1
Tel. 0259-86-3630（月～金、9:30～17:00）
Fax. 0259-86-3631 Email: heartbeat@kodo.or.jp

玉三郎さんと鼓童の１２年

―「アマテラス」「神秘」を通し、太鼓打ちから舞台人をめざす

『アマテラス』の終盤のクライマックスで、アマテラスを呼び戻すため懸命に太鼓を打ち、楽器をかき鳴らす神々。アメノウズメの踊りで宴が盛り上がる中、賑わいにつられて岩屋戸から玉三郎さん扮するアマテラスが姿を現す。神楽や芸能の起源ともいえる見せ場だ。客席の中からもアマテラスを崇めるため息が漏れた。自らを呼び戻してくれた神々の真心に、アマテラスは慈しむような眼差しで応える。その眼差しに母性のようなものを感じた時、佐渡の鼓童村で見た玉三郎さんとメンバーの練習のやりとりの光景と重なった。「鼓童村に通うようになって12年が経ちます。今回の『アマテラス』の舞台でセンターに立っているのは、その当時研修所を卒業した人ばかりです」と玉三郎さん。これらの若手メンバーたちは最初から玉三郎さんの指導を受け育った。

「玉三郎さんに声をかけられると、研修生たちが格段の進歩を遂げるんです。まず、若いメンバーたちの意識と心が高められる。」

2年前、佐渡を訪れた時、鼓童村の食堂で、当時代表だった青木孝夫さんが、そう話してくださった言葉が思い出された。鼓童結成30周年記念の機に、玉三郎さんを芸術監督に迎えることを発表し、新体制を整えつつある時期でもあった。「玉三郎さんは一人一人に丁寧に向き合い、個の可能性を引き出してくださるので、個が立ち、それが全体の力になっていく。30歳になった鼓童は、個の技量アップにより、もっと上を目指したい。若さでただひたむきに打てば伝わる太鼓もありますが、歌舞伎の囃子方のように、太鼓一つで雪も降らす、そういう表現の幅がある打ち手を育てたい。玉三郎さんが培ってこられたあらゆる芸術性をメンバーに吸収してもらい、太鼓芸術の新たな可能性を開く組織にしたい」と青木さんは続けた。その折、鼓童の研修所で篠笛を吹いていた、線の細い少年の面立ちの住吉佑太さんが、2年ぶりの今年6月、同じ場所に、頼もしい太鼓打ち姿で現れた。メンバーたちがひとまわり大きくなり、個が立ってきたことが印象的だった。

「太鼓を打ち込むことが第一の目的で、深い大地に根ざした音を出し、同時に音楽的でなければならない。次に舞台人でなければならない。メンバーたちに自分のポジションがどこなのか自覚しなさいと言いました。舞台人ならただの太鼓打ちだけではすまない。テクニックがあり、専門的なことがわかる舞台人としての意識を持ち、どんな役でもできるようにならないと。僕自身、役者として揚巻もお軽も、御姫様から遊女まで演じなければならなかった。ファッションモデルならなんでも着こなせる。この人、この役の為に生まれてきたのかしらと思わせるようにならないと。その必要がないならそういうポジションを自分でみつけましょうと話しています。」

玉三郎さんは、メンバーに「こうしなさい」とは言わない。メンバーたちは、玉三郎さんの言葉や立ち居振る舞いに啓発されながら、舞台人としての在り方を自主的に高めていく。

鼓童 http://www.kodo.or.jp
952-0611新潟県佐渡市小木金田新田148-1
Tel. 0259-86-3630（月～金、9:30～17:00）
Fax. 0259-86-3631 Email: heartbeat@kodo.or.jp

島根県では石見神楽が熱い！

温泉津から出雲へ「大蛇」をめぐる旅。

「小林さんが神棚の前で柏手を打つ姿勢や作法がかっこよくて。日常生活の在り方が神楽の舞台につながっているんです。」と草洋介さんは言う。

10年前から温泉津を訪れ、石見神楽に関わってきた草さんは、「罪やケガレを祓うなど、ここでは、日常生活の中に神様がある。石見神楽は、地元の人にとって、子どもに礼儀作法を教えたり、人間形成の場でもある。人々の生活の中に息づいている民俗芸能のすばらしさに触れて、蛇舞の型や技術だけではなく、生に繋がる精神や奥にある神秘を、鼓童にしかできない舞台として表現したい」という。今回、草さんは、同じく蛇舞を舞う7歳年下の小松崎正吾さんを伴い、小林工房で約2週間寝泊まりしながら、小林さんや「温泉津舞子連中」から蛇舞を教わり、共演しながら神楽を研究した。「この地で学びながら、大切なのは、昔も今も変わらずある、祈り、見えない明日への祈りだと思いました。稲穂が育つことへの願い、水の恵み、水害への不安、それらへの祈りが神楽の所作にこめられている。技やかっこよさより、奥にあるもの、本質に迫りたいです。ぼく自身は、蛇を舞いながら水の流れになりきれればと思います」と小松崎さんは言う。

神楽は神座がつづまった言葉といわれ、もともと奏楽、唱歌、舞踊、演劇といった歌舞音曲により神をお招きする神事芸能だった。しかし、明治時代、神懸かりによる託宣や、神職による演舞が禁止され、神楽は民間の手に委ねられた。石見神楽の「大蛇」は観客を喜ばすために、竹と石州和紙でつくられる提灯蛇胴ができ、蛇の数も増え、口から火を噴くようになり、目が光り、どんどん派手になった。1970年の大阪万博で、石見神楽の「大蛇」が8頭立てで披露されて以降、一躍有名になり、一気に発展したという。現在は観光促進のイベントも多い。

「最近の神楽は、見た目のかっこよさばかり追求するあまり、派手な動き、エンターテイメント性に重きがおかれ、もともと神事として舞われていた本来の意味がなおざりにされている」と小林さんは危惧を感じている。

小林泰三さんは小学生の頃から神楽面職人・柿田勝郎氏の元に通い面づくりを学んだ神楽面職人だ。温泉津舞子連中のベテラン舞い手としても活躍しながら、各地で神楽の指導やワークショップも主催するなど、これからの石見神楽文化の伝承を担う若手ホープでもある。街を歩いていると「泰三さん！」とあちこちの子どもが大声で名前を呼び、手をふる。温泉津の温泉街の中央にある龍御前神社では、定期的に様々な神楽団の演目がかけられ、夕食後、孫の手を引いたおばあちゃんや、温泉に入ってほろ酔い気分のカップルなどが神楽を見にやってくる。保育園では、神楽のお囃子を鳴らすと、子どもたちが火がついたようにいっせいに踊り出す。この地では、アンパンマンも○○レンジャーも神楽のヒーローには叶わない。「アイドルとかスターとか表面的なかっこよさ、おもしろさだけ追う現代人は多いと思う。でも神楽は、生きてることとは何ぞやと迫ってくる。鬼や大蛇は恐怖や戒めの存在でもあり、神聖でもあり、畏怖することが、日々の感謝の気持ちにも繋がっていく。生きてることに直結しているから、子どもたちも吸い込まれる。説明的ではなく『これは一体なんだろう』と、考えるスキマがあるから夢中になれる」と小林さん。

龍御前神社の舞台で、鬼が客席まで飛び出してきたとき、おばあちゃんの脇にしがみついて泣く子どもの姿があった。子どもは五感で、体まるごとで神楽を楽しみ、怖がる。神楽はリアルなのだ。

左）「小林工房」にて、小林さんの面づくり作業。沢山の神楽面が今にも動き出しそうに出番を待つ。
中）龍御前神社での夜神楽の様子。地元の方々や観光客で賑わう。右）神楽ヒーローになりきる保育園の園児。

鼓童 http://www.kodo.or.jp
952-0611新潟県佐渡市小木金田新田148-1
Tel. 0259-86-3630（月～金、9:30～17:00）
Fax. 0259-86-3631 Email: heartbeat@kodo.or.jp

島根県には、幼い頃から体に染み込んだ神楽が忘れられずUターンする若者が多いという。小林さんも一度は故郷を離れたUターン組。京都造形芸術大学の学生・職員として10年を京都で過ごし、地元に戻り、面造りの小林工房をスタートさせた。小林さんが同大学で石見神楽のワークショップを開いていたとき、同大学の学生として参加した草さん、上田さんと出逢ったことが鼓童との縁に繋がった。「風土の、土と風。土はその土地で育まれたもので、風は他所から吹いて来る新しい息吹。両者の間を行ったり来たりすることが大事かなと思います。譬えていえば、ぼくにとって石見神楽は土着的な土、鼓童は世界や全国各地を巡る風のような存在です。両者が交流することで、刺激を受け、各々にとって新しい発見や変化がおこる。」

鼓童の温泉津における稽古最後の夜、温泉津舞子連中のメンバーたちへの御礼として、草さんと小松崎さんが打ち込んだ太鼓の音には「心からのありがとう」の響きがあった。翌日は雨の中、小林さん、草さん、小松崎さん、上田さんと、60年ぶりの遷宮で御本殿の大屋根が葺き替えられた出雲大社に詣でた後、皆で、八岐大蛇退治の舞台といわれる出雲の斐伊川を見にいった。強風吹きすさぶ橋からは「ひゅーひゅー」と笛のような音が聞こえる。昔、斐伊川は暴れ川だったそうで、氾濫した折、大蛇の腹のように血の色になって流れたという。山麓一帯は砂鉄の産地でもあり、川床に砂鉄が流れ込んでいるせいか、川面が蛇の鱗のように見え、「大蛇だ」と、皆で叫んでいた。

「太鼓を打ち込むことが第一の目的で、深い大地に根ざした音を出し、同時に音楽的でなければならない。次に舞台人でなければならない。メンバーたちに自分のポジションがどこなのか自覚しなさいと言いました。舞台人ならただの太鼓打ちだけではすまない。テクニックがあり、専門的なことがわかる舞台人としての意識を持ち、どんな役でもできるようにならないと。僕自身、役者として揚巻もお軽も、御姫様から遊女まで演じなければならなかった。ファッションモデルならなんでも着こなせる。この人、この役の為に生まれてきたのかしらと思わせるようにならないと。その必要がないならそういうポジションを自分でみつけましょうと話しています。」

玉三郎さんは、メンバーに「こうしなさい」とは言わない。メンバーたちは、玉三郎さんの言葉や立ち居振る舞いに啓発されながら、舞台人としての在り方を自主的に高めていく。

龍御前神社で小林さんに「蛇舞」の稽古をつけていただく。右から、小林さん、草洋介、小松崎正吾。

鼓童 http://www.kodo.or.jp
952-0611新潟県佐渡市小木金田新田148-1
Tel. 0259-86-3630(月～金、9:30～17:00)
Fax. 0259-86-3631 Email: heartbeat@kodo.or.jp

暗闇に繰り広げられる「神秘」

その奥や向こうに広がる世界。

11月23日、いよいよ新作『神秘』が鼓童の拠点佐渡を皮切りに開幕する。新作発表に際し、玉三郎さんが寄せた挨拶文の中に、次の言葉があった。

「闇を作り出し、ロウソクの灯りの中で遭遇する物の美しさと、曖昧で不思議な感覚。神秘性の中には、恐ろしさ、滑稽さ、可愛さなど、いろいろな事柄が含まれています。昔から伝わっている蛇舞も、退治される蛇には驚く程の神聖さが備わっています。今回の舞台では闇の中からいろいろなものが現れます。鼓童ならではの太鼓の演奏に視覚的な要素も十分取り入れました。不思議な時空というのは、その場に居合わせなければ感じることが出来ません。神事や芸能も、先人の閃きを長い時間をかけて磨き上げて来たものです。」

そして、初演を前に、玉三郎さんは次のように語ってくださった。「暗闇の中、見えるようで見えない、見ようと思えば一瞬見える。その隠れようとするところに、先を行きたい、未来を見たい、光を見たい気持ちがおこる。その揺れ動きが神秘です。登場する蛇舞も、蛇の扱いをどうやったらいいのか。蛇の動きの中に、『あっ。悪の象徴としての蛇なのに、こんなに美しいものなのかしら。ほんとうは精霊なのではないかしら。』受け取る側もいろいろな感じ方をする。そう思う幅の中に神秘がある。研ぎ澄まされた芸を真心を込めて演じたとき、芸能の神様というか、宇宙からの波が降りてくる。一人にかもしれないし、一夜限りかもしれない。それが劇場なんです。」

その言葉を聞きながら、10月2日に行われた伊勢神宮の内宮の「遷御の儀」の光景を思い出した。天照大御神をおまつりする内宮の、旧殿から新殿へのお引越しは、古式ゆかしい装束と作法で古代絵巻のようだといわれるが、その列は暗闇に包まれ、玉砂利を踏む音のみが遷御の進行を伝えた。風の流れが、温度が変わり、何か、懐かしい気がした。闇の中に気配としてのみ感じられる神秘そのものだった。21世紀における初めての式年遷宮が、1300年という長きにわたり、延々と続けられ、数多の人々の手を経て、現代を生きる私たちの手元へと届けられた。その年、『アマテラス』と『神秘』が上演されるという偶然に、神秘を感じるのは私だけだろうか。

「神秘」では演劇的要素を多く採り入れている。

鼓童 http://www.kodo.or.jp
952-0611新潟県佐渡市小木金田新田148-1
Tel. 0259-86-3630(月～金、9:30～17:00)
Fax. 0259-86-3631 Email: heartbeat@kodo.or.jp

「神秘」の稽古場から。

～鼓童メンバーたちのモノローグ。

（上）玉三郎氏自ら獅子を動かし、演奏者へイメージを伝える。

（中）（下）新たな照明の小道具も作成。音だけでなく視覚的にも、不思議な空間を演出。

■新たな取り組みや稽古を通して見えてきた「神秘」のイメージ。どのような舞台になるのか、日々の中で実感していることをメンバーに訊いてみました。

小田洋介（演出補）

僕個人の見解ですけど、この作品は凄く郷土色が豊か。でも、地元のものをそのままやるんじゃなくて、日本人がどこかこう、ふるさとの匂いのように懐かしく感じる空間に仕上げようとしていると思うんです。だから本当に舞台でしか体感できないです。それとあとはもう、必死で打っていく太鼓の音色ですね。この舞台の中で「鼓童らしさ」って言われたら、純粋に太鼓を打てるかどうかです。自分のいろいろな欲を削ぎ落としながら没頭していけるかどうかですね。

住吉佑太

鼓童のスタイルっていうのが最後にちらっと垣間見えるような演出だった前作の「伝説」とは違って、まず演目の九割が新曲で、玉三郎さんのアドバイスのもとゼロから創り上げて構成されています。そういう面でも新しいものになると思います。例えば、島根の石見神楽の大蛇とか。あとは要所要所に今までにない演劇的な要素や芝居があって、太鼓があって…という構成の仕方が面白いと思います。

この間、玉三郎さんが「表現の振り幅」の話をしてくださいました。「今までずっと太鼓を打ってきた鼓童が全く違うことをやって、また太鼓に戻ってきた時に、どう変化しているか」という話です。その振り幅が大きければ大きいほどもっと新しい太鼓が打てるんじゃないかなと思い、言われたことを積極的に全部やってみようという気持ちです。

小見麻梨子

神秘っていう言葉が大好きで、神秘って言われると闇を連想します。闇があると、凄く想像力が働きますよね。その中から人間が生み出してきたものが多分、伝統芸能なんじゃないかと思います。そういう人間のわくわくした、ちょっと怖いけど、怖いモノ見たさみたいなことを表現している舞台になると思いますね。何より私達自身、稽古をしていて楽しいんです。玉三郎さんと大笑いしながら入場シーンに振りを付けたり。

「神秘」には鼓童の持っている日本人の精神性とか土着性とか懐かしさとか、そういう物が物凄く入っているような気がしています。何か、“想像のびっくり箱”みたいな。“モワンモワンモワン…”と言うか（笑）。煙と共に何か出た、次は女性が出た、鬼が出た…今度は何が出るんだ？… て、やっている方がどんどん楽しくなるし、観る人も楽しいんじゃないかなって想像しています。

阿部研三

先日、石見神楽の先生に大蛇の動きを見せていただいた時に、動きがもの凄く…本当に蛇で。中に入っているのは人間なんだけど蛇の動きに忠実で、それが恐怖心を与えるというか、神秘的に感じる部分であって。太鼓グループが大蛇って、急に飛んだような感じがするんですけれども、ちゃんとタイトルの「神秘」に合っていてるように稽古をしていて感じますね。そして、大蛇を神秘的に見せるためには、やはりその、人間の気配をどうしても消さなきゃいけない。郷土芸能から持ってくるということは、地元の方が持つ芸能のエキスを吸収しつつ、舞台で自分たちのものとして

表現していくことが僕たちの仕事だと思っています。

玉三郎さんから、自身が美しいと感じたものを直感で表現したいという思いが凄く感じられて、それを創り上げる為にいろいろな仕組みを理路整然と組み立てていく所が、見ていて素晴らしいです。自分のイメージを形作る人っていうのはこういう人なんだと、稽古をしていて感動します。

まだまだ現段階では舞台を形作る途中で「神秘」の要素が充満していますが、これからクライマックスに向けて物語として繋がっていくところが楽しみです。

演出：坂東玉三郎
企画制作：（株）北前船
写真：岡本隆史

鼓童ワン・アース・ツアー2014～神秘 公演スケジュール

5月～7月

5月 10日（土）【鹿児島】宝山ホール（鹿児島県文化センター）
5月 11日（日）【宮崎】日向市文化交流センター
5月 13日（火）【福岡】福岡シンフォニーホール
5月 21日（水）【香川】サンポートホール高松
5月 23日（金）【愛媛】南予文化会館
5月 24日（土）【愛媛】松山市民会館大ホール
5月 30日（金）～6月1日（日）【京都】京都四條 南座
6月 4日（水）【京都】中丹文化会館
6月 6日（金）【長野】ホクト文化ホール・大ホール
6月 7日（土）【新潟】柏崎市文化会館アルフォーレ
6月 9日（月）【新潟】小出郷文化会館
6月 11日（水）【茨城】牛久市中央生涯学習センター文化ホール
6月 13日（金）【埼玉】サンシティホール
6月 14日（土）【神奈川】茅ヶ崎市民文化会館
6月 15日（日）【千葉】東金文化会館
6月 21日（土）～25日（水）【東京】浅草公会堂
6月 27日（金）【東京】小平市民文化会館 ルネこだいら
6月 28日（土）【東京】狛江エコルマホール
6月 29日（日）【埼玉】熊谷文化創造館さくらめいと
7月 4日（金）【山形】南陽市民会館
7月 6日（日）【秋田】由利本荘市文化交流館カダーレ
7月 13日（日）【高知】土佐清水市立市民文化会館
7月 15日（火）【広島】庄原市民会館
7月 18日（金）【大阪】摂津市民文化ホール
7月 19日（土）【滋賀】近江八幡市文化会館

9月～10月

9月 19日（金）【北海道】札幌市民ホール
9月 20日（土）【北海道】苫小牧市民会館
10月 2日（木）【山形】シベールアリーナ
10月 4日（土）【福島】いわきアリオス
10月 5日（日）【茨城】ひたちなか市文化会館
10月 7日（火）【宮城】東京エレクトロンホール宮城
10月 10日（金）【神奈川】厚木市文化会館
10月 11日（土）【千葉】船橋市民文化ホール
10月 13日（祝・月）【埼玉】さいたま市文化センター
10月 17日（金）【静岡】三島市民文化会館
10月 19日（日）【愛知】みよし市文化センター サンアート
10月 25日（土）【島根】島根県芸術文化センター「グラントワ」
10月 26日（日）【島根】大田市民会館

▶▶2015年以降北米、ヨーロッパでの公演を予定
※最新の公演情報は鼓童ウェブサイトでご確認ください。

鼓童 http://www.kodo.or.jp
952-0611新潟県佐渡市小木金田新田148-1
Tel. 0259-86-3630（月～金、9:30～17:00）
Fax. 0259-86-3631 Email: heartbeat@kodo.or.jp